「連携と統合」の理念に基づく学生教育の
～文部科学省「特色ある教育活動支援プログラム」「現代的

Good Practice

GP実施部会の取組

本学の「連携と統合」の教育理念に基づく実績と今後の構想は、平成17年度文部科学省「特色ある教育活動支援プログラム」及び「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択されました。これは、平成21年度に正式実施される4年生の必修科目「インタープロフェッショナル演習」(以下「IP演習」と表記)の実現を目指して、専門職連携のための教育方法の開発と地域の基盤整備・人材育成を通じて、保健医療福祉サービスの質向上を目指すものです。

このIP演習の実現にあたっては、埼玉県内の様々な地域の保健医療福祉職従事者や一般市民はもちろん、本学の教職員全体の理解と協力が欠かせません。そのためにGP実施部会では、地域開発、教育内容開発、教員研修会、広報活動などを行っています。

比企地域で「専門職連携推進会議」を設置

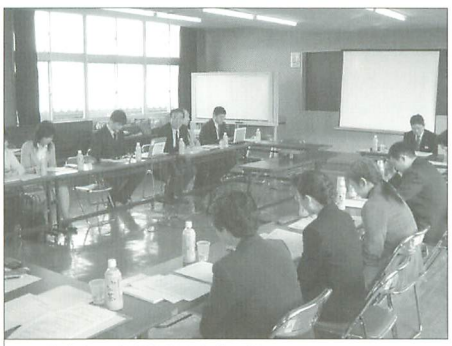
埼玉県比企福祉保健総合センター・東松山保健所の管内の関係機関と大学との協働によって、平成17年3月23日(木)に「比企管内専門職連携推進会議」を設置しました。この会議では、本学から「IP演習」の教育内容や今後の進め方を説明して協力を依頼したうえで、比企管内の専門職連携推進の課題解決を通じて、地域全体の保健医療福祉サービスの質向上を図る取り組みを大学と協働して行っていくことが確認されました。

5月27日(土)には第2回専門職連携推進会議を開催し、IP演習の具体的な進め方を討議。今年度9月の試行事業には、埼玉成恵会病院、社会福祉法人昴、東松山市総合福祉エリア、東松山市立市民病院、社会福祉法人松仁会介護老人福祉施設東松山ホームの5つの機関・施設に御協力を頂くことになり、現在本学教員と担当者の方々との打ち合わせが行われています。

また同日には、第1回の専門職連携推進研修会「保健医療福祉の連携をすすめる地域と大学の連携」を開催。約30人の参加を得て、看護学科の大塚眞理子教授からIP演習の概要説明を行った後、英国で実際に専門職連携教育を行なっているレスター大学のエリザベス・アンダーソン先生から、地域と大学との連携の実際についてお話をいただき、活発な質疑応答が行われました。その後小人数ごとのグループになって、本学教員の進行のもと、普段顔を合わすことが少ない異なる機関や職種の専門職同士が、相互理解を深めるグループワークを実施。協働して仕事をするためには、相互に理解することが大切であることや、その様な相互理解の場作りを進めることの意義を実感するものでした。

この専門職連携推進会議や研修の実施は、今後埼玉県内の他の地域にも広めていく予定です。　(新井利民：社会福祉学科)

専門職連携推進研修会で講演する
エリザベス・アンダーソン先生(英国レスター大学)



比企管内専門職連携推進会議の様子

小グループに分かれて意見交換(専門職連携推進研修会にて)

第6回アジア太平洋PBLカンファレンスでIPEのシンポジウムを開催

現代GPの取り組みの一環として、去る2006年5月26日(金)から28日(日)にかけて東京女子医科大学(東京都新宿区)で行われた国際カンファレンスにおいて、東京慈恵会医科大学(医学教育研究室・福島統教授)との共同でIPEに関するシンポジウムを開催しました。

シンポジウムのテーマは、「インタープロフェッショナル教育におけるPBL」。PBLとは、Problem-based Learning(問題解決型学習)の略です。医学教育などにおいて、膨大な知識を詰め込む教育への反省から、学生が問題を出発点に(この場合の問題とは、その時点で「知らないこと」を指します)、自己学習とグループ学習を通じて学習をする手法で、受身ではない主体的な学習を通して、まさに、血となり肉となる学びを実践するものです。今回、国際カンファレンスとして開催されたのを機会に、昨年度、本学と並んでIPE(多職種連携教育)で特色GPを獲得した慈恵医大との共同でシンポジウムが実現しました。IPEは、問題解決型により多数の分野の学生等が参加して討議をしたり、患者さんを訪問したりするなどの実践的な手法を通じて、自らの学習課題を到達させる点で、まさにPBLの手法そのものであることとの確信から、今後PBLを発展させようとするアジア太平洋地域の関係者に、本学の取り組みを含めたIPEを発信しようと意図したものでした。

シンポジウムでは、両大学(慈恵医大：福島統教授、本学：大塚眞理子教授)から先ずそれぞれのIPEの取り組みを紹介しました。引き続き、今回、本学向け研修会や、比企地域での研修会の講師としても招請した、エリザベス・アンダーソン先生(英国レスター大学)とアンジェラ・レノックス先生(同)から、同大学におけるIPEについて、PBLを進める観点から発表していただきました。多職種と実質的に協働しながら、患者・利用者中心の保健医療福祉サービスを提供していく姿勢を学ぶ上で、いずれの取り組みも、シンポジウムに参加したアジア太平洋地域の関係者(医学教育の関係者が大半を占めてはいましたが)の関心を呼び、様々な分野の学生が、その壁を乗り越えて、PBLによってIPEを進めていく際の基本的な考え方や手法などについての質問が相次ぎ、瞬く間に予定の3時間が過ぎたようでした。

また、本学からも前出の大塚教授を始め、多数の教員が企画や討議に参加して、同シンポジウム参加者との意見交換の場を持てたことも大変意義深いことでした。

今回は、アジア太平洋地域を対象とした国際シンポジウムでしたが、今後は、こうした取り組みに関心を持つより広い地域の関係者とも交流をする必要性を実感し、本学もグローバルな情報発信を担っていくことが求められているといえます。

(朝日雅也：社会福祉学科)

展開を、埼玉県、日本、世界に向けて発信しています。
教育ニーズ取組支援プログラム」選定プロジェクトより～

学内にて教職員研修会を開催

2006年5月29日(月)午後、「インタープロフェッショナル演習(IPE)の具体化に向けて」という主題で教職員研修会を実施しました。講師は英国レスター大学のエリザベス・アンダーソン先生と、アンジェラ・レノックス先生で、98名の教員と学生が参加し、逐次通訳のもと3時間にわたり、講演と熱心な討論が行われました。

最初にアンダーソン先生が、レスターの英国内の位置や地域性を紹介した上で、レスター大学が地域の福祉医療機関や地域住民組織とともに取り組んでいるIPEの歴史と概要を説明されました。お話によれば、英国内では1980年代から様々な医療現場の事故が分析され、それを受けて1990年代初めより保健医療福祉の専門職連携に関する卒前教育の重要性が強く認識されたといいます。その後各大学で取り組みが始まり、レスター地域においても家庭医であるレノックス先生らの協力を得て、1990年代後半に地域での専門職連携教育が開始されました。

レスター地域の専門職連携教育は、3つの大学の学部長と地域の保健行政責任者によって実施の意思決定が行われた後、組織的に実践されています。看護、医学、リハビリ、社会福祉、薬学などの領域の、一部は修士課程の学生も含む、3500名の学生が、「レスター・モデル」と呼ばれる専門職連携教育プログラムを展開しています。

教育課程は3つに分けられ、比較的一般的で分かりやすい事例から、次第に複雑な事例が段階を追って提示されます。実習は地域の患者やその主治医などが参加するなど、きわめて実践的な内容です。このプログラムの成否に関わるため、実習地や協力者の選択や養成にはかなり力を入れているようです。
本学もこれらの実践を参考にしながら、日本や埼玉県の地域性に合わせた取り組みを進めたいと思っております。

(萱場一則：健康開発学科)

教職員研修会の様子

◆GP実施部会◆

坂田悍教(教育研修センター所長)
大塚眞理子(看護学科教授)
長谷川真美(看護学科助教授)
萱場一則(健康開発学科教授)
原　和彦(理学療法学科教授)
川俣　実(作業療法学科助教授)
丸山一郎(社会福祉学科教授)
朝日雅也(社会福祉学科助教授)
新井利民(社会福祉学科助手)
石原正三(一般教育会議教授)
島崎美登里(一般教育会議教授)
小山有一朗(大学経営改革室長)
山口清貴(総務・経理担当部長)
山中　薫(教学担当部長)
岡田甲一(情報・施設管理担当部長)

「インタープロフェッショナル演習」の実施にむけて

今年入学なさった1年生には、「インタープロフェッショナル演習(IP演習)」が必修科目として新設されました。これは5学科の学生がチームを組んで、病院や施設などのフィールドに出向き、それぞれの知識と専門技術を活かし、連携協働して利用者・患者の援助活動を学ぶものです。この科目は連携と統合科目群の科目です。この科目群では、1年生で「ヒューマンケア論」を受講し、連携協働したヒューマンケアの実現について学びます。9月に予定されている「フィールド体験学習」では、5学科合同でフィールドに出向き、ヒューマンケアを体験的に学習します。そして、4年生で総仕上げとなるIP演習に臨みます。

IP演習の実施は2009年になりますが、現在、GP実施部会および連携と統合科目群担当者会のIP演習部会において、教育内容の検討、教材作り、施設訪問、演習マニュアル作りなどを行なっています。そして、旧カリキュラムの4年生を対象にIP演習を試行し、2009年には450名の4年生が実施できるよう準備します。

今年は、9月19日(火)～22日(金)の4日間、比企地域の5つの施設で、約20名の4年生が5つのチームをつくってIP演習を試行する予定です。受け入れ施設では、「看護学生の実習は受けていますが、5学科合同は初めてで……」と戸惑いの声を聞きますが、IP演習を引き受けることによって「院内の職員の連携をよくしたい」「地域の他の施設との連携の強化に役立つ」と前向きに受け止めてもらっています。そして大学の教職員と実習機関の職員の協働により、新しい科目の創造に取り組んでいます。

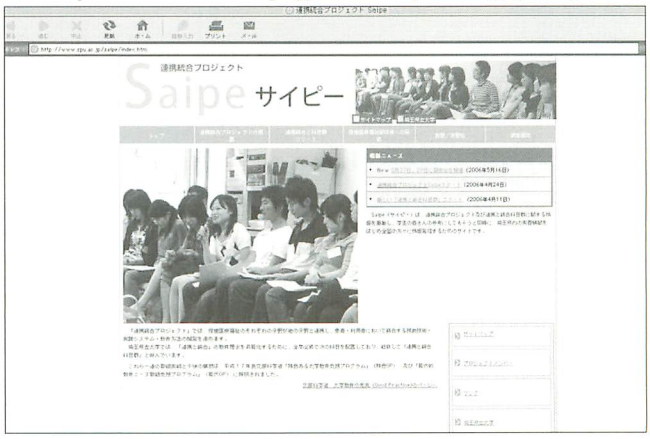
9月22日(金)には、IP演習の成果報告会を開催する予定です。後援会の皆様にもご参加いただけるよう準備し、学生の教育成果を見ていただく機会になればと思います。

(大塚眞理子：連携と統合科目群担当者会会長、看護学科)

広報活動を充実させています

GP実施部会では、これまで2回のニュースレターの発行と、WEBサイトSaipeの制作を行ってきました。横浜・京都・広島・東京などで行われた文部科学省主催のフォーラムや、東京女子医大、島根県立島根女子短期大学などで行われた関連イベントなどにも積極的に出展し、本学の取り組み内容を広報しています。

●Saipe(サイピー)　http://www.spu.ac.jp/saipe



【今後の予定】
- 9月19日(火)～22日(金)：比企福祉保健総合センター・東松山保健所管内にて、IP演習の試行事業を実施
- 11月22日(水)～24日(金)：第2回埼玉県立大学IPE国際セミナーを開催

【お問い合わせはGP事務局まで】
TEL＆FAX：048-973-4199　E-mail：saitama-gp@spu.ac.jp